



中村俊定文庫
文庫 18
134



元祿十

誦諧
巾
小
紅

謝
和
撰



俳諧

拖嬖人礼介為 下卷

亥 正月 題混雜

- 一 七種の如や摺鉢乃秋の暮 調當
- 二 一取付く唐を眠く氷柱 大沢 未覚
- 三 とららく籠を籠海よ カキ 陸船
- 四 向ふや ツラホウシ 初勝 新法 風和
- 五 まるくや 程の 樽肉 梅月 柳燕

亥 正月



鏡さよまらば水姿日れ野
 木り
 村ぬよもまは昔月きらり居小
 文車
 鳴色の籠とつこを屢麻
 包抄
 牛乳尾のまぬやこむきて虫ナメクシ
 柝燕
 二路のさう苦き白ひやこ極
 和賤
 馬さよまらばぬ須戸の路ハ
 茶瓢
 花も胸一胸のケこれ梅枝を
 緑箱
 鴨のぬや沙はぬらあ蝶アハ
 一桐

真代よまらばの葉山よやスモリ極生、
 無真
 流よ流る居乃スモリ暇や秋の音
 孤蟬
 くれとさあつとぬ年スモリせりまを
 未覚
 カリや人吟スモリ管も秋の音
 吟水
 空の鶴追僧ははけの葉山よか
 風和
 小虫のやをと耕も木スモリ能水
 全
 白きやもよは結ぬ富士はスモリ
 無真
 玉水や露是スモリ花の行も亦
 全

又工申

二

北冥シモノハナ いてや 蟬の羽のあつと
蟬のしん人よあつた遠く人
白鳥のよきうん水の動いもの
人魂の跡はとくう花は枝
調尋
未覚
陸船

二月 同敷

灯を消る月をゆく出柳の
そよよの風の葉の相極
梅香や賤の鼻も梅もや
吟水
仅水
花蝶

羞明マユヒや 蟻アリり 日かゝ蛙
間マくは 根津込め古や成
梅あぬを葉毎よ鼻の指し
鳥の葉やさの花みち紫梅の志
むきく蟬や 腹よさうを雀
花はよむく抱りや 我なり
寒鴉爪わくめきく葉より
蜂の首を吃くよ 絲瓜シウカををる
葉蟻
宵睡
少蟲
一〇
全
全
文因
不調

おりら月序の梅跋の梅^ハれ
 為相の秋やお葉^カれ河^カむ霞^カ霞^カ
 日乃常^{コケラ}秋の氷柱の柿^{コケラ}か
 紗^カの牧^カ慟^カもそ^カ妃乃眠^カん^カ月^カ
 こ夕^カや^カも^カ外^カと^カ葉^カ山^カ子^カと^カ冬^カ松^カ
 お^カ草^カの^カ柳^カの^カの^カむ^カも^カん^カ見^カる^カ子^カ
 雄^カ子^カ啼^カけ^カん^カ此^カ處^カの^カ星^カを^カか
 空^カを^カな^カや^カ月^カの^カお^カ鳥^カ思^カひ^カ中^カ
 鳥^カ
 中^カ子^カ
 荒^カ
 葉^カ蟬^カ
 孤^カ蟬^カ
 無^カ真^カ
 風^カ和^カ
 楓^カ園^カ
 柿^カ燕^カ

ま^カる^カや^カ山^カ原^カの^カ白^カ鹿^カれ^カ丸^カも^カ伝^カ
 摘^カち^カの^カや^カ男^カの^カ花^カ葱^カ女^カは^カ松^カ葉^カ
 春^カ雨^カや^カ上^カ葉^カは^カ露^カを^カ下^カこ^カも^カ
 貫^カ之^カつ^カ六^カ種^カよ^カあ^カす^カら^カ芥^カ水^カ
 白^カ魚^カの^カ毛^カ氷^カ蟹^カ乃^カ糸^カ屑^カん^カ
 乃^カ新^カく^カ深^カ藏^カも^カあ^カや^カ花^カの^カ蝶^カ
 三月
 夕^カの^カ干^カの^カや^カ啼^カ音^カれ^カ鳴^カ鳩^カ鳥^カ
 松^カ夕^カ

夕紅地

田

月をうんむめん僧の夏屋あり
 ともり二月の端の月をうん
 白鹿や初を流すを初なる
 啼くを色遊るやうやまの音
 山吹や入りよ色の一まつも
 蝶の羽りきゆるくく舞
 吾れも尾のけりや紙の鳥
 赤やうやうの寸維の二友のめ

調尋 幽笛 鷄言 調角 一〇 桃艶 桃風 孤蟬

蟬振くを鳴蟻よりせきり
 指をの氷柱や京の早下
 杜宇の初やうた及初さく
 花より彩より音より海乃松月
 札きく菊のち根やうそれ草
 蹴く石もああのちそれ盛
 白ゆれ跡より水層樹外水
 霜白く杭の跡から鷗の影

全 吟水 未覚 全 自泉 催風 卯下 仅水

父工申

五

多よあて二及因はよるき電小 不周
幼振豆ち本ら園の葉末うね 羽切 我誰
とく月を眺り出 ちるき雀か 田 露水
杓把留庵主の好は葉う酒れ 和英

四月

帰れは何がゆき子し河を 河原代 総筠
傘や山の下外をよる 木 三
白桃や多滴係 銀河 陸船

足袋くくまもてよ好んは 本松 八角
雞の啄力ふれ敷ふ邦 如此
牧火もき川半子も吼ん夕外 朝三
迹くね奉加持寺の初振 全
禱志くちの又月女男也 一嘆
水仙よちくくもよ猜 猜 蛙流
やもまや 嘸や嚏 郭云 梅言
軽石や花の決凝 須たの磯 木三

又工申

麦刈く跡寒くぬ枯野
 水鏡や衣凝付蝶乃蝶
 二枝て居らん信もぬゆく良
 一都ノハ一向五寸也杜宇
 親在も胡麻の杖よらとさ
 吟水
 文車
 甘乳
 未覚
 全

五月

朝日の月なほ鳴る郭未覚
 夏水や人磨信く鶉の尾木ヨリ

月布月布や身身の影影の子子親親
 柳柳の香香やいつ夏菊夏菊お松茸松茸
 小波小波やむいおああの筆筆の心心
 蝶蝶くの子子かき凍凍きき柚柚也也
 鳥鳥かきけかきけ一葉一葉をぬきぬきるる鳥鳥
 肉付肉付の葉葉山山子子んんよよりりは秋秋の香香
 夕夕白白の夜夜の蚊蚊を抱抱蓄蓄くく
 みりみりもるもる鳥鳥ののななここ持持
 未覚
 花蝶
 石流河原代
 沢蟹
 秋改
 兼吟
 桃風
 鶉言

五甲

咲や鳥を折るその枝
 枝言
 五月雨マダ露も芽を出さず川の粗
 湖且
 卯もや晴部のふれ目も
 隨宜
 明さるを厚と燕の蚊蠅は
 風和
 事ありあけ枕ゆるしけり
 無真
 夕顔や一言主の神も
 全
 蚊蠅明くも雨よをたて
 孤蟬
 長月のたをるる水柱は
 蟻山

軒鳴を柳のむよさゆらん
 未覚
 夕日ゆや代々の集は苗紀
 成雲
 思ふまじく梅後乃手箱あり雨
 和賤
 螢呼へ花は石の虎耳草
 調膠
 丸金細きて抱あくる牡丹
 破笠

六月

死志のぬ蚊も石破の誠は
 二本松 八角
 巻はしはは幻より
 左沢 陸船

物^{モノ}づ^ク結^ム白^クほ^シ魂^ヲを^ホお
 と^ク夕^ヤニ^タい^雨の^女月^ハ
 中^ノゆ^く境^ノ人^々を^や橋^ノ涼^シ
 夕^ノ涼^風の^節よ^度子^ハ蚊^ハを^成
 け^てあ^らわ^て我^ノ袿^ハけ^やお^の襟^ハ
 朝^ノる^る足^ハい^も餅^ハか^秋乃^香
 晒^貝や^和花^の光^々る^生の^浦
 才^ハい^おを^解れ^は池^ノ水^ハ地^ノ

菰吟
 文車
 全

九龍の梅よ雪雀の逆廻^ル
 夕^ノ涼^風の^節よ^度子^ハ蚊^ハを^成
 水^鏡や^極き^らお^苗外^ハ
 白^雨や^浮岫^村の^離音^ヲ
 夕^ノ涼^風の^節よ^度子^ハ蚊^ハを^成
 夕^ノ涼^風の^節よ^度子^ハ蚊^ハを^成
 大^師の^片身^ハぬ^れぬ^白雨^ハ
 臨^海を^みる^雨も^田植^カ

葉蟻
 松葉
 花丸
 葉蟻
 海石
 全
 吟水
 陸船

又紅埤

五月舟や秋の夕の日はまは
船起の男丸くく田うへか
白濁のもしもくも根を蔓
魂まうら秋の夜の昔は
うつくぬんゝ気まゝに紅の巻
孤蟬
未覚
全
全
我誰

七月

初穂や浪の縁の同い
白濁のもしもくも根を蔓
和賤
梅言

白蓮や水鏡月のらるる如
身とん石て流るれ秋の暮
夕やも石あゝあゝ御心を
秋よ深しむらじほる風は
拾ひぬし玉のまらせんの露
秋也やゆゑ胡仇のゆゑにま
人に夕影思へば霞を
露のまらも露まら人のゆゑに
本言
石流
吟石
白揚
全
一扇
花蝶
調尋

物福や鼻吸表の下涼し
手巾や記とちあしうん極
暖燠よまこほせ風極きゆ中
月よ花よ何と断つせ終人
片割のせよ控臥僧の碑火
衣もや若く唾出すも別草
山寺やとら月を追ふも蛇籠
稀妻の影や津浪乃ち麻鹿

柀雪
文車
和氷
雪溪
霜鶴
山睡
孤蟬
海石

胡弓や宇宙は煙中の息
いさけししと繩子の魚をまき
縮まん芭蕉の聲かぬ尖るる如
夏の夜に水浴抱く暖補哉
我との証我あつしや七用子
蓮池やほせのまいたるしをを
あやももやま人の息よ蚊のつ

葉蟻
陸船
風和
吟石
我誰
惠尚
和英

八月

夕紅地

夕紅地

版と内お葉はなごつね
 夕に寂秋のこころに字註が
 ころ葉人いれあんなる後の
 紅葉くせや通昭の涼葉
 と人いこねあふくも女小
 何やまこもきぬこはるの臨
 ぞ物やと羽一葉のあふこ
 涅槃像と申き何とほすこ

未覚
 和賤
 ホコリ
 陸船
 如此
 一嘆
 一〇
 調武

墓の尾や兔の角と秋の香
 草狩や鹿退よ出小松尔
 柴のうや端おををの岡狩り
 去りくや榎分を幸市二句
 うつぬきく星雷盆や秋の香
 秋の名や古聖は流治戸濃

自泉
 袖笠
 未覚
 浮水
 葛東
 和英

十月
 霜月
 一結

ノ五申

十三

風の根の一寸物白き昔原
 風や尾の末の虫の鳴
 後れ月望よ斜の二もほし
 細代も水ぬ水はぢぢとん
 花の本は葉はほほせ人よ
 不二包むるは裏ふし表は
 露取ん火もふき雪の文
 本枯よ木の葉は後の行枯
 文車
 花蝶
 笛笛
 吟水
 未覚
 耳言
 梅言
 露仲

いさ道女うゑのちも思川
 ちろくは鳥や曇る朝朗
 賤女の川板をよ運ぶ夜食
 んぞく小キ足袋を早本の書
 吹くくは葉の鳴ぬを雀小
 観法で書よめく返む玉散
 反故字や成は錦堂詩のち衣
 竹色は竹の都のちあけぬ
 花蝶
 如此
 文車
 調武
 女子
 水月
 嵐松
 楓岡

椒房のちよと嶺や啼きほ
香 愔意
 夜くのた理のそとやねとふ
調角
 何とん月頭基細代ち
浮水
 湧くたき乱をぬすくふ
葉蟻
 大仏よふく 明ぬ文古ふ
吟水
 蚊遣のこんくふ葉よぬつ
孤蟬
 榴く 意はあやふく
風和
 古井さくはあを海さる葉
松山 我誰

園ちの舞竹や吹く夕陽
全
 菊持少く田く人れ涙あふ
全
 秋の身は持唯ほ雄たふん
日 玄真
 帰むむ女くく乃くこまか
我誰
 論のぬすく成んをくふ
花蝶
 名取く雄子くは一腕く
越後 柳登
 名やく云ふてんん物の形
調尋
 流よまらへんきらくそく
全

又五甲

十二月

埋火の爰み月多乃朕が卯
 岸焼や都の岡よ出く字を
 中の尾や、漱水柱の糸の雨
 水柱や遠壺の影乃玉の如
 えや月より日向を此蠅鼓
 明々るの柳う枝乃根竹川
 垣ちつや内のみをさるの仲

葉蟻
 未覚
 花蝶
 陸船
 玄之
 風和
 孤蟬

抱くはぬ梭欄のよ波に霞より
 用れく惹水柱の枯葉小
 岸和秋の碇乃まがら舟
 煤掃や煙の直垣、秋の漢織
 津傍の秋用とらうるの蟬
 一期爰存よまじり水柱を
 初をよまじりの舌よ辛き七
 ちを掃やまの根せ乃ちうの強

陸船
 未覚
 葉蟻
 全
 孤蟬
 無真
 陸船
 未覚

妹よあまのこゝろの聲も人草の音
 水邊や火燈一箇所一城
 才や火燈鳥のふきり 蛭子音
 とりりよ車もまよひしきりの梅
 山の尾や稲妻を乱きらん
 稲妻や音のまはれり麻の角
 ちよと記すまの世よありん花女
 郭よ千尋の階や夢の萌
 淮漢 賤忌 飄朗 調尋 海石 全 葉蟻 未覚

心懸き粟よ何れ地野人の外様
 けしんり花ついでる蝶よ色
 ちよと魚目三川思きこふまの
 園の夜は白鳥計月夜は
 花葉焼一原のの音をたん
 白鳥の音は水の果々水乃氣ん
 卯のちよと海色つん立回水
 蘇花を貯ゆらん誰
 和英 倫隨 慰志 兔嘯 調武 和氷 和賦 調榊

又五申

十七

榊堂

歌仙

瓜のうらぐ唇口よまら観小
いつき子足とり何飯蛸
天と胞こ花物地よ分筆て
風雅やぐらんくの鳥
酒千レタ糸い草まてきよ月
流筆もと構よ鹿馬松

立志
調和
秀和
立嘯
栴紫
一峰

う
 夏衣以内白きも秋のきぬん 執筆
 浅くかりきも水小坂飯汁 秀和
 お二きけはかきく麻のき衣 調和
 ちんちん 疔ワツラヒとつとも藤の魚 立志
 仰けは縁なきかや出家の 一峰
 生好しのから籠や臨ん冬ん 柙繁
 虫は名も十の包は十の色 立嘯
 むりまもがし人も追従 調和

名

木性しんもよしのの桂也 秀和
 君は便如履脱とと法 一峰
 禪帽子杏カウモ入いていていて 立志
 苦子と逃にふ 蛇へのい合 立嘯
 秤目よ七柳らら上下田 柙繁
 せは末スビラキ同乃御 醫い心 秀和
 水みの竹婦たはいくく桐火桶 調和
 之カタイ鬼いもまを好色の果 立志

うつり香も餅上楊枝のあけりよ 一蜂
 音解 魁嚙雨さし 柳絮
 心定や芳華拾遺 立嘯
 助老を 腮アコをのころ遠松 調和
 一河の柳の葉葉あまの枝 秀和
 六祀の糠と 新の初見 一蜂
 燈蓋を孤があめて細月 立志
 元杉わつらる 旅の旅 立嘯

碎ははらばら 老の巻 柳絮
 石の氣雪は海に染 秀和
 動は初九の龍や眠らん 一蜂
 名言を破家の分列 立志
 移るもやう似海を 調和
 氣みくゝ心懸 根性 柳絮

ウ

五甲

七

千丁儂

妹、神のうきまへをいし、孝子時
ふくらむ、指、蚊、懺の宵、針、調和
所中、漁、中、遠く、幡、掛く、無倫
酸、人、が、鞘、を、跡、で、足、付る、尺草
と、お、月、履、を、れ、い、下、り、坂、艶士
花、の、う、つ、め、く、並、木、の、こ、え、執筆

首、の、う、き、ま、へ、を、い、し、女、の、縊、死、調和
亡、八、き、八、つ、亡、ス、り、因、山夕
還、俗、の、一、つ、の、筆、を、足、で、歩、く、尺草
泉、即、の、救、と、い、伊、坂、の、川、堀、離、無倫
龍、ま、ま、葉、あ、り、孝、と、訪、山夕
燐、の、息、し、胡、粉、燐、牡、蛎、艶士
杖、も、ま、ま、な、く、む、の、を、い、ん、事、無倫
御、湯、を、れ、鏡、人、よ、か、つ、ん、調和

湯く 葉茶飲り何能^二節^一 艶士
 二日春性く 朝露の田螺^ホ 尺草
 月を哭しん 花の送柱 調和
 こゝせをまゝ 日暮里^{ニッホ} 山夕
 曼陀羅の曾よ 至ても拾骨目 尺草
 爪根若き 胡捨く妻 無倫
 猫の日々 精をそと^ハ 又撫せん 山夕
 石たし 織紙^ニ 紙^ハ 艶士

教^ク 扇^ハ 机の牡丹糸の強を 無倫
 直^チ 下^ノ 形^ハ 凝^コ 生^キ 調和
 側杖よ 君^キ 亮^{リョウ} 腰の骨 艶士
 京^{キョウ} 物^{モノ} 流^ル 意^イ 尺草
 長^{チガ} 珠^{ジュ} 暁^{キョウ} 切^キ の古筆賣 調和
 二寸の鉛と 本^ホ 腰の先^{サキ} 山夕
 室^{ムロ} の月^{ツキ} 風^{カゼ} の暖^{ヌク} 簾^{スリ} 尺草
 大^{オホ} 名^ナ 扈^コ 従^{ジュ} 白^{シロ} 髪^{カミ} 尺草
 無倫

山夕
 艶士
 無倫
 調和
 艷士
 尺草
 巫女さきへあそびに報日
 夕のちや眉間の黒子陰の癒
 ねんねはるまぬれ帳

ふの仙

不角
 調和
 直方
 和推
 和英
 進漢
 片肌をまじ脱衣を涼よ
 折の予菓子に夏の香打
 泥亀の水に樹の柏ゆき
 片月招くを此樹拳羽
 一日と蛇のこころの浮中沉
 知哲愚頑り其石會そはそ

夕紅埜

汚擲る美く阿まこよ刃架カケ

止水

更きけ糸よ物モノのす

執筆

霜サカケ磨かるとあきくは泣く冬至梅

調和

是イテッヨ當人ヲを式部喪の内

不角

いゆせめくはは縁を去眉根掃

和推

二水コトク陸少コトク吹きよとをきり日

直方

筭布施ノ帝ノ少初衣短月

淮漢

鞘ノ色ノ杖ノ一ノ男ノねノ乱

和英

魚籃寺ノれノ観音ノとノ人ノくノ靈聖女

不角

蜂ノの腰ノ柳ノしノ外ノよノ死ノの詩

止水

陽ノにノたノ立ノ余ノ半ノ鳥ノ帽ノよノさノもノらノ

直方

本ノ曾ノ及ノ淳ノ車ノ呂ノ乃ノ音

調和

よノ分ノ人ノいノまノんノ扇ノもノんノ謳ノ歌ノ

和英

亭ノの灯ノよノちノ抽ノ投ノ込ノむ

和推

月ノ代ノよノ鯉ノをノ射ノ志ノきノりノ白

止水

暴風ノよノめノぬノ丸ノ人ノめノれノ聲

淮漢

余

夕紅埜

夕紅埜

兼買ん（）や小判よ白しほ
 行（）石塔り（）唇の極粉
 姿鏡の影我母えわきや母
 市也（）入る例（）のねん
 糸也（）此楊（）の釣（）竹舌（）穀
 竹（）川（）り（）ふ勸（）請（）乃（）幣（）
 粒（）喰（）る（）報（）い（）病（）を（）此（）也（）立（）
（）懸（）念（）伸（）む（）つ（）の（）せ（）や
 和推 不角 直方 調和 淮漢 和英 不角 直方 調和 淮漢 和英 止水

波
 踏（）も（）も（）想（）も（）きぬ（）天（）邪（）鬼（）
 運（）結（）ら（）ち（）そ（）敵（）の（）味（）味（）招（）
 桔（）は（）列（）で（）昆（）陽（）燈（）の（）ま（）ま（）妻（）
 月（）額（）も（）利（）
 花（）の（）乳（）薬（）の（）神（）よ（）紫（）ん（）
 夕（）く（）流（）る（）平（）に（）梅（）ん（）
 和英 直方 和推 止水 淮漢 調和 和英 止水

夕紅

十五

原本他石先生藏書水口氏厚意ニシテ借用ス
昭和十三年五月十四日書写校合了
治子写

